

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075400327		
法人名	ケア・サービス 株式会社		
事業所名	グループホーム かえで (樹の街通り)		
所在地	〒807-1307 福岡県鞍手郡鞍手町大字室木801番地	TEL	0949-43-3900
自己評価作成日	平成29年12月01日	評価結果確定日	平成30年02月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成30年01月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ぬくもり、やさしさ、安心、そして地域とのふれあい」の理念の下に、大人数の施設にはなかなか出来ない丁寧な介助(朝・晩二回の陰洗や清拭、一人ひとりゆっくりと会話をしながらの個人入浴等)を実施し、利用者様の清潔と、自宅にいるように安心して暮らしていけるような介護を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が目指す理念に基づいて、利用者一人ひとりに寄り添った温かいケアが出来る様に常に心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に2回、近くの小学校の児童との親睦会があり、歌や太鼓の演奏や、カルタ取りやゲームと一緒にやっている。また、毎年夏にかえでの中庭で行われる盆踊りは、利用者も楽しみにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りの「かえで通信」を不定期に発行し、かえでに入所されている皆さんの普段の生活を見ていただいたり、年に一度の町の祭りに福祉施設として参加するようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月ごとに、併設の小規模多機能ホームと合同で会議を開催して、利用者・家族・区長・民生委員・行政職員を交えて、事業所の現状報告、問題事例の検討など行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への行政職員の参加、町のふれあいフェスタやふれあい交流会への参加により相談や情報交換を行う等、機会を設け協力関係を築くようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為に門や玄関を施錠しているが、日中は開錠に努めている。「身体拘束廃止マニュアル」を作成し、研修やミーティングを通じて拘束のない安全なケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	さまざまな虐待についての理解を深める為、研修に参加し学んだことをケア・ミーティングでスタッフ間で共有し、虐待が発生しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の成年後見制度に関する研修や、ケアミーティングにて、知識の共有に努めている。前年度まで、実際に後見人制度を利用している入居者もあり、今後も必要に応じて制度の利用を検討する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には事前にホームの見学をお勧めして、代表者・管理者・ケアマネが、本人や家族の不安や疑問等に対して十分な説明を行って、安心して契約ができる様にしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族代表、担当者会議にはできるだけ利用者、家族に参加していただき、意見や要望を出せる機会を作っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に2ユニット合同ミーティングを行い、個々の意見を出してもらい、意見等を反映出来る様に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のケア能力や資格取得など、個々の努力や実績を参考に給与の査定を行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては年齢や性別の制限は無く、個々の得意な分野を発揮してもらい、出来ない不得手な部分は出来る人が補うようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設長は常日頃からミーティングなどの会話の中で、利用者の人権尊重の大切さを、実際のケアや家族からの意見などを通して話す機会を設け、職員に理解してもらうように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は、職員と一对一の時間を設け、（今、困っていることは無いか、仕事で無理をしていないか）等、勤務時間、人間関係など、常に一人ひとりを見るようにしている。限られた人数の中で、外部の介護研修にも参加をするようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に一度、町主催のげんき祭やボランティア連合会主催のふれあい交流会に参加している。町内の他の施設の方や利用者との食事やレクリエーションを楽しみながらの交流を通じ、いろいろなことを体験し勉強になっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住み慣れた自宅からの入所は、すべての事が不安だらけなので、本人から可能な限りその一つ一つをお聴きしながらゆっくりと御家族のように寄り添い、温かい関係を作るように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自分たちの大事な家族に対し、ここではどのような生活を支援してもらえるのか、（食事・排泄・入浴など）どのような介護を受けられるのか、他の利用者との関係性など、不安な事をうかがい、出来る限りより良い関係になれるように努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族が望むような、心からの温かいケアに近づけるように、日々の生活の中で何が必要か、気づくように努力している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共有することで、一緒に笑ったり怒ったり、時には涙したりと本心を表出しやすい、出来る限り本当の御家族に近い関係になれるよう心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族は、本人を施設に入所されることで安心な反面、心配や不安も抱えていることを考慮し、本人の日々の生活や体調、希望や要望を御家族と一緒に把握し共有するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親族、友人の協力の下、個々の希望に応じて情報交換や面会・外出などの交流に努めている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気軽に談話しやすい空間作りをし、利用者同士の関わりの中で、意思の疎通や価値観の違いからトラブルにならない様、見守りや仲裁を行うようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、必要に応じて手紙や電話などの連絡を受けられるように、支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが何をして欲しいのか、何をしたら過ごしやすくなるのかを念頭にいれ、御家族からの意見やスタッフとのミーティングを通じて、意向に近づけるように日々努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の今までの職歴・家族構成・生活のあり方等を御本人や御家族からお聴きし、サービスに反映できないか、どのようなケアが好まれるか、どのような支援が適しているか把握するように心がけている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケース記録やスタッフ間の申し送りノートを活用し、個々のADLを考慮し自立支援を視野に、各々が無理のない生活を送れるように支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が毎日の生活に対し、過ごしやすく、安らぎを感じていただけるように努めている。また、毎日のケース記録やスタッフ間の申し送りを通して定期的にケアの見直しを行うことで、スタッフ同士常に話し合い、現状にあったケア方針を立てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者各自の日々の様子をケース記録に記入し、体調不良・転倒・注意事項等、スタッフ間の共有ノートに別記記入し、必ず確認サインにて、利用者一人ひとりの状態を全職員が把握できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	午前9時半のラジオ体操と、懐メロ、唱歌の歌の時間、午後2時半のリハビリ体操など、決まった行事のほかに、不定期で近隣の散歩やドライブ、御家族からの冠婚葬祭等の外出依頼の支援等、柔軟に対応するようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内から来る毎月の歌のボランティア、年1～2回の日本舞踊、近隣校区小学校からの児童の慰問、年1回の地域ふれあい行事の参加に加え、利用者個人の趣味に合わせて季節の花や野菜等を、中庭の畑やプランターに植え、花実や野菜の収穫を楽しんでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度のかかりつけ医の往診、利用者の既往に応じての病院受診や急変時の緊急受診時は、家族に相談の上受診し、その結果を報告している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時、かかりつけ病院の担当看護師に電話にて利用者の症状を伝え、対応、処置を相談したり、先生の指示を仰ぐようにしている。 また、利用者1名は、毎月1回の受診とは別に、訪問看護制度を利用し、心身の変化が大きい利用者の支援に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時の入院は、利用者や家族の不安を軽減できるように、病院関係者に症状を随時確認し、治療方針等の把握に努め、退院時も、今後の施設での継続治療に必要な情報交換や準備を心がけている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ターミナルケアの実施は行っていないが、早い時期から家族と相談し、医療機関と連携を図りながら、出来る限りグループホームでの生活を経て、利用者が寿命をやすらかに全うできるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段より利用者の体調の変化をチェックしている。また、スタッフ同士で応急手当や対応などの仕方を勉強して、全職員が緊急時にあわてずに対応できるように努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時は、安全確実に尚且つ早く避難出来る様に職員全員で話し合い工夫をしている。地元の有識者や家族代表が参加する運営推進会議でも、災害対策について話し合うことがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、その方の過ごした人生の月日の中での生き方、考え方を尊重する声掛けを心がける。普段の会話からも御本人の自尊心を感じることも多く、やわらかく受け止めるよう努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人がどのような生活を望んでいるか、職員に気軽に遠慮なく表現出来る様、信頼していただけるように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが毎日をその人のペースでゆっくり楽しく過ごせるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方や近隣の方の面会や訪問時や、病院受診、散歩等、人に会う時はもちろん、普段から清潔感のある洋服を着ていただき、御本人にあった身だしなみを提供するようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ残しが無いように、一人ひとりの栄養状態や嗜好、摂取量を把握し、食べにくい方は刻みや高カロリーゼリーなどの補食を提供し、出来る限りホールで皆と一緒に楽しく食事を摂っていただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・食事形態等、個々の状態に合わせて対応している。水分量が不足しがちな方には、好みの飲み物を提供したり、早起きが苦手な方には、少し遅めの朝食を提供するようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った口腔ケア（うがいやブラッシング等）を行い、自力が困難な方には介助にて行っている。毎日夕食後には、薬による浸け置き洗浄を実施している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な方には時間を見てトイレ誘導をしたり、一人ひとりに合った用具・用品を使うなど、個々に適した支援を行うようにしている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、食物繊維の多い食事の工夫や、水分補給に努めている。 また、日常生活の中で少しでも身体を動かす機会を毎日のラジオ体操などの参加を通じて心がけている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の身体状況に合わせて、週2回の入浴を提供している。状況によってシャワー浴・清拭を行い、清潔の保持に努めている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、体調や状況により自由に休息できるように支援している。 ゆっくりと安眠できる様に細やかな見守りを重視している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬に細心の注意を払い、個々に応じた服薬支援を行っている。処方内容の変更があった場合は、職員間の情報を共有し、内服後の状態変化は十分観察を行い、主治医に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベント、買い物、読書、ドライブ等、希望に応じて支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の気分、体調を見ながらホームの周りを散歩したり、御家族の協力を得て外出等の支援を行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は必要額をグループホームで預り、病院受診・生活用品等を購入したときは、必ず個人の現金出納帳に記入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて家族・知人等に電話や手紙の発送などの支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは利用者が気持ちよく過ごせるよう、無駄なもの、危険や物を省いて過ごしていただいたり、ウッドデッキには洗濯物、・布団干しをし、中庭も散歩出来る様にしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は、利用者の希望・行動を考慮して、その方の落ち着いた場所を提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド・タンス等利用者や御家族と相談しながら使い慣れた家具を置いている。壁には御家族の写真・近隣の小学校からの手紙などを貼り、利用者に和んでいただいている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、廊下には手すりを設置。居室内も必要に応じ手すりを設置し、安全に移動・移乗できるようにしている。		